

# 各部会 春闘討論集会

## 港湾部会

昨年12月8日(金)17時30分から、地本会議室にて「大阪支部港湾部会23年総会・24春闘討論集会」が22名の参加で開催されました。

部長あいさつの後、事務局長より23年活動報告(案)が提案され、続けて24年運動方



2023.12.8 港湾部会

針(案)が提案されました。多きは「意識の共有」「統一集団交渉での組織的なたたかい」「大阪港のたたかい」の3点が提案され議論しました。また、新役員体制(案)が提案され全体で確認することとなりました。続けて24春闘討論集会では①要求額について②定年延長制度について③万博・IR・カジノ建設問題について④港湾施設の兵站基地問題について⑤その

他、後補充について、以上5点を中心に活発な議論をおこないました。役員会を開催し意見をまとめ、参加者全員で確認され、支部の討論集会に反映することとなりました。

トラック輸送に多大な影響を及ぼすことが予想される2024年問題は、少なからずとも我々港湾で働く者にとっても、大きな影響があることが予想されます。また、万博建設問題について、港営事業会計費が湯水の如く使われ、いっぽう我々が働く港湾施設の老朽化は深刻な問題となっています。

我々港湾部会は役員・幹事を中心に分会員とも意識の共有をおこない、これら山積する課題に打ち勝つため、強固な団結の下で、組織的なたたかいを構築し立ち向かいます。

(港湾部会長 横山 貴安基)

## 車両部会

昨年12月17日(日)、大阪港湾労働者福祉第1センターにて「支部車両部会2024春闘討論集会」を行いました。

今回は、10分会15名、執行部13名の総勢28名が参加しました。

司会を竹山副部会長、開会あいさつを南野部会長から「物価高と賃上げ」労働時間の減少など給料に直結する問題や暮らしに関わる物価やインフラ生活するための出費上昇に対しての賃上げは全く追いつかず実質賃金ではマイナスにしかならず賃上げに繋がらない。また、24春闘でも大幅な賃上げ交渉が必要

という力強いメッセージで始まりました。

続いて小林委員長の支部代表あいさつで、「秋年末の報告や社会政治的不安、これからの労働組合必要性など、社会の循環を良好にし社会全体が好景気にすること」と話されました。

また、宮脇事務局長から春闘

方針の提案が行われ春闘のたたかい方などを提案されました。

車両部会は標準的な運賃収受と適正な価格転嫁の実現、安心して働ける労働環境の実現を目指していきます。

(車両部会長 南野 一樹)



2023.12.17 車両部会 関西地方 大阪支部 車両部会

# 訪中で感じた平和や労働運動

## 日中労交

12月11日～12月15日、中国(北京～南京)へ行きました。日中労交とは日中労働者交流会とい1974年に発足した会です。新型コロナウイルス感染が世界的に収束しつつある中、4年ぶりの現地訪問となり大阪支部より私と全国各地の日中労交会員の6名が参加しました。

## 結団式～訪中へ

12月10日、蒲田の日港福会館で訪中団6名が初めて顔を合わせ(それまではzoom会議)、訪中の意義や現地での行動確認をおこないました。

12月11日、北京の天候は雪で当日の最高気温は2度でした。そして通訳の方がお出迎えをして頂き『職工之家』というホテルに泊まりました。ここは中国の労働組合が経営するホテルで組合幹部の方々が歓迎会をしていただきました。そこでは、世界情勢や活動報告、これからの友好関係と様々な意見交換をおこない懇親会は終了しました。

## 南京への移動

2日目は北京南駅から高速鉄道(日本でいう新幹線)で南京南駅へ移動しました。北京から南京は約900キロあり4時間弱で移動できました。そして南京市にある労働者福利厚生施設を訪問しまし

た。ここは労働者の共済制度や転職のためのスキルアップ施設、職業斡旋に起業するための融資、スポーツジムやプールが完備されていました。この施設は2年前に新築されたもので、デジタル化が進んでいるのが印象的でした。



## 南京大虐殺国家公祭に参加

3日目は朝から南京大虐殺国家公祭に参加しました。多くの国からたくさんの要人が参加しており、そして地元の学校の生徒たちも参列していました。その後、南京城跡を見学し、「南京大虐殺資料館」を訪問し、戦争の残酷さを思い知らされました。

そして夕方から開催されたキャンドル祭にも参加し、残虐な戦争で亡くなった方々を慰霊し、この日の行動は終了しました。

## 現地大学生との交流

4日目は南京の現地大学生と意見交換をおこないました。今回、日中労交には大学生2名が参加しています。日中友好の在り方や、お互いが相手の国になぜ興味を持っ



たかなど、1時間ではありましたが熱意ある意見が飛び交っていました。わたしの出番はありませんでしたが、彼らは真剣に友好を考えており、そして平和を望んでいることは伝わりました。

## 最後に

現地では、中国総工会(労働組合)の方がたには大変お世話になり、国家公祭出席の段取りをはじめ、ホテルの手配や移動手段の確保、食事のお世話や通訳、多岐に渡り本当にありがとうございました。この方たちがいないと今回の訪中は実現しなかったと思います。

この5日間、生活を共にして平和や労働運動についてたくさん語り合いました。もちろん国の形態が違うので労働組合の在り方も違いますが、平和を思う気持ちは同じだと感じました。

最後になりますが、南京大虐殺資料館に行き、沖縄の「ひめゆり祈念資料館」を思い出しました。

戦争に良いも悪いもないではないか?。わたしもこの議論によく遭遇しますが、戦争は悪です!絶対に起こしてはならないのです。

民間人が大量に死ぬのです。日常生活を奪われ、家族を奪われ、人としての尊厳も奪われ、そして命をも奪われるのです。それが戦争なのです。

中国の方に「日本は敵ではなく隣人であり友人」と言われました。訪中する前は身の危険を考える不安な自分がいました。この一言を言われたとき、そういった自分がとても恥ずかしく思いました。

今回このような機会をいただいた日中労交のみなさん、そして大阪支部のみなさん、ありがとうございました。

『平和なくして労働運動なし』この言葉の重要性をもう一度、考えてみたくなりました。

(執行部 佐久原 智彦)